

二〇一六年十二月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

いっさい うじょう

一切の有情は みなもつて世々生々の父母兄弟なり。

せせしきうじょう

ぶもきまつだい

『歎異抄』

たんにししょう

一切の生きとし生けるものは、すべてみな、あらゆるいのちとつながり合って生きる父母兄弟のような存在であるという意味です。この親鸞聖人の言葉は、私たち一人ひとりのいのちがどのように成り立っているかを考えさせられます。過去から現在まで、数え切れない先祖のいのちが受け継がれ、両親がいて、今の自分のいのちがあるといえます。そして、そこから家族や友人など、多くの人と関わり支え合い、また多くの動植物のいのちをいただいて生かされていることに、あらためて気づかされます。

いよいよ十二月に入り、今年もあと一ヶ月となりました。この一年を振り返りながら、日常の心得の一つであるいのちを大切に考えて、感謝の気持ちを持って新年を迎えましょう。

今月の聖語

じやけんきょうまんなくしゆじょう

邪見憍慢悪衆生

ししょうしんげ
『正信偈』

邪見とは、真理にそむいた見方や考え方のことで、自分がいつも正しいと思っている人（悪衆生）のことです。憍慢とは、おごり高ぶりの姿のことです。自分の知恵をほこり、人の話を素直に聞かない人（悪衆生）のことです。このような人は、まわりの人が意見やアドバイスをしても、耳をかそうともせず、全く聞こうとしません。

社会心理学者のジヨナサン・ハイト氏が、人は「自分が正しい」と思うようにできていて、そういう思い込みから抜け出すことが、人間関係を円滑に進めるうえで重要であると語っています。「自分が正しい」という見方や考え方をあらためれば、他人の意見も自然と聞き受け入れられるのではないのでしょうか。また、自分の才能や能力など、自分の方が優れていると慢心することも、決して良いことにはなりません。

こうした邪見憍慢な状態にならぬよう、まわりの人の意見やアドバイスをしっかりと聞き入れ、柔軟のある人になることが大切だと思います。

宗教教育係